

11/29

70年三層とこの学生運動 の再強化を確 かめよう

田代に一日もずつ得物は何だ

金市太の学友諸君よ

11月の運動は、東京、東北、西日本にまたがる間に亘りて、甚だどうなるべきものは一体何ぞ? それは具体的に東北が夏目をめうどと同時に、目的意識的に自利的な主体的条件の形成を追求し、やうどることである。それより大改革をめざす、全くとして發展面にある中に於ては、とりわけ問題にされなければならない。

二の面の大学改革を筆の手で明りゆく上に、正義の行動に付ければつづる。性、單純な裏口からEと書つて、同時に、かかる当局の反対性を克服する手段の學生主体の力不足、口言ふのよりは、内閣官房を中心とする民主連合が、その主張を裏づけたとあらわれるEである。それ改めては、全国的見地を示して、11月26日、長、改組公團員として後任務的に付づけられるであろう團交において是非とも次の一類は内容をかちひうなければならぬ。すなはち、今日の大改革斗争が議長団のメンバーも含めていた如く、決して個別の争として勝利しない以上、全国の大改革斗争に連帯し、総体としての大学に対してかけられてくる政府独占からの攻撃等に對して、斗争という反独占斗争としてのみ立派にではなく、一体として突破口をもつたい。具体的には、単に否定的な要求項目とのみつづけるのではなく、一体として突破口をもつたい。現在の性格を突破し、明確な戦略と技術によつて團交を活用して行く。問題として、統一団交実行委員なるものの、様々の意見の寄せ集め的なものには、それを主体的に組織していくような組織へと質的变化をかちじるこがあげられるだろう。

我々は、その様な斗争を展開してこそ、日米共同声明による日本帝國主義者のろ貫の意図が表面化した現在、その意図を粉碎しうる様は力關係の構築の際の、重要な一翼をしめると同時に、又、全員加盟制自治会の大衆的、威圧的な再建をしようのだといふことを確認しなければならない。

もうすでに何度も確認した様に、10・21～11・17の斗争の中で生産者における庄倒的な組織の発起がなされた。しかしながらが、必ずしも十分に組まれたとは云えないだろう。かかる点を踏まえるならば、再度、全國における斗争を構築していくことが我々に要請されているであろう。我々の斗争は、权力との力關係を正面に捉え、その中で、労働者階級を中心とする民主勢力からの圧倒的な支持を得られる様な斗争、即ちクラス、ゼミを単位とする學生の反的決起を保障しえき様な斗争であり、それは同時に、70年、更には70年代反独占斗争を担うる様な負うをもつて斗争でなければならぬ。

全市大の学友諸君よ

かかる視界を踏まえつつ、團交の任務が単なる當局の責任追及に止まるのでなく、むしろ主要な任務として、その様なものを媒介化しつつも、運動の發展に即しうる主体的条件の創出を目的意識的に追求しなければならない。そして、それは具体的な形として史者せなければならない。かかる位置付けの下、團交を勝利的に展開させようではないか。

民学同盟アピール

11/29